

マエストロからの
メッセージ

このプログラムは、モーツァルトとハイドンの音楽についての風刺であるシュニトケの作品から着想しました。プログラムの残りの部分は、二人の作曲家の傑作からいくつかを取り上げます。オペラの掉尾を飾る『『イドメネオ』のバレエ音楽』はおそらく最もよく知られ、モーツァルトの最も喜びに満ちた作品の一つです。

このプログラムを日本という素晴らしい国で演奏し、この素敵なオーケストラと一緒に音楽づくりをするのは、私にとって大きな喜びです!

ジョン・ネルソン



スペシャリスト、
ネルソンの古典派

初登場となるジョン・ネルソンは、名門パリ室内管弦楽団の音楽監督を長年務めたまさに室内オーケストラのスペシャリストです。ハイドンとモーツァルトを、シュニトケの音楽で結び付けるというプログラムは、ネルソンならではの趣向でしょう。ハイドンのチェロ協奏曲には「驚くべき才能」と称されるタチアナ・ヴァシリエヴァをソリストに迎えます。

幕開けは、モーツァルトの「歌劇『イドメネオ』のバレエ音楽KV367」。「イドメネオ」は、トロイア戦争後のクレタ島を舞台とするオペラ・セリア。最終合唱の後に付けられたバレエのために作曲された、終幕を飾るにふさわしく華やかな音楽です。

ハイドンの「チェロ協奏曲第2番」は一般的にシューマン、ドヴォルザークの作品とともに「三大チェロ協奏曲」として数えられる傑作。演奏に必要なテクニクの数々が古典派時代の演奏技術を超えるものとみなされたことから、20世紀半ばにハイドンの手稿譜が発見されるまでは偽作説が囁かれていました。これはハイドンがいかに時代の最先端をいっていたかを裏付けるものです。今回は「才媛タチアナ・ヴァシリエヴァ」持ち前の豊かな演奏でハイドンの名作の魅力に新たな光が当てられます。

シュニトケの「ハイドン風モーツァル

ト」は、モーツァルトが書いたパントマイムの音楽KV446(断片のみ現存)を基に「交響曲第41番」の有名なメロディが現れたかと思うと、ハイドンの『告別交響曲』風の仕掛けが最後に待っているというも。新旧の音楽様式の融合、そしてシニカルさとユーモアが同居し、まさにシュニトケ音楽の真骨頂と言えます。

プログラムの最後を飾るのは、モーツァルトの交響曲第38番「長調」。「プラハ交響曲」の愛称で知られているのは、「フィガロの結婚」の成功によってモーツァルトがプラハに招かれ演奏したことに由来するものです。第二楽章には「魔笛」や「ドン・ジョヴァンニ」のモチーフも隠れており、これらを探してみるのも楽しいでしょう。紀尾井シンフォニエッタ東京としては2008年以來の演奏です。

スペシャリスト・ネルソンが引き出す室内オーケストラの魅力と醍醐味をたっぷり味わってください。



タチアナ・ヴァシリエヴァ(チェロ)

紀尾井シンフォニエッタ東京
第93回定期演奏会
スペシャリスト、
ネルソンの古典派
2014年2.21 19:00
2014年2.22 14:00

*エステルハーゼ侯の夏の滞在地に同行していた楽団員たちが早く家族の元に戻るよう、楽長ハイドンは、終楽章でろうそくを消して一人ずつ退場していくというパフォーマンスによって君主にアピールした。